

中小企業景況調査報告書

令和2年1月～令和2年3月期実績 / 令和2年4月～6月期見通し

令和2年3月

宮崎県商工会連合会

中小企業景況調査要領

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、全国商工会連合会が中心となり、昭和54年度から四半期ごとに全国一斉に実施しているものです。本県分の調査結果は次のとおりです。

1. 調査対象期間

令和2年1月～令和2年3月期を対象とし、調査は令和2年2月20日から3月1日の間に実施しました。なお、令和2年4月～6月期は予測値となります。

2. 調査方法

商工会の経営指導員による訪問面接調査により実施。

3. 対象地区

宮崎市生目、中郷、佐土原町、高崎町、すき、国富町、西米良村、木城町、諸塚村、日之影町の10商工会地区。

4. 回答企業数

150企業のうち、146企業の回答を得た(有効回答率97.3%)。

業種	調査対象企業数(%:構成比)	有効回答企業数(%:構成比)	有効回答率(%)
製造業	27 18.0%	26 17.8%	96.3%
建設業	24 16.0%	23 15.8%	95.8%
小売業	45 30.0%	44 30.1%	97.8%
サービス業	54 36.0%	53 36.3%	98.1%
合計	150 100.0%	146 100.0%	97.3%

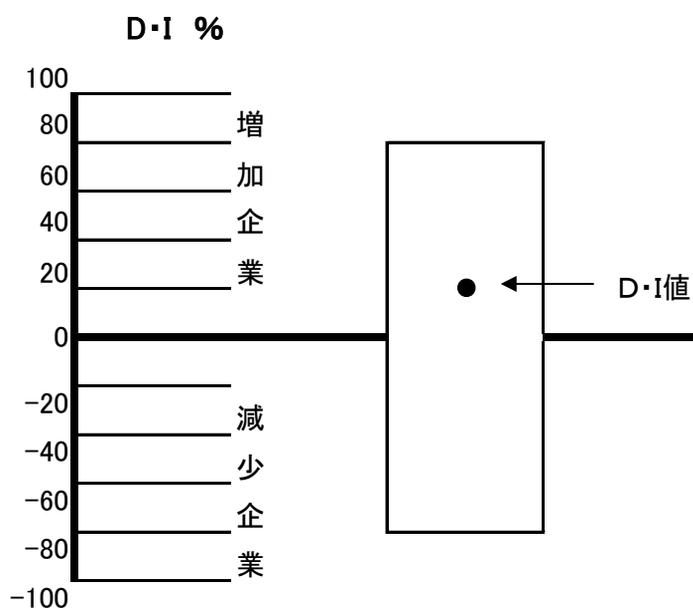
5. その他

(1) D・I

この報告書の中で、「D・I」とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。これは企業経営者の景気動向を表わす指標として利用されています。算出方法は、今期と前期、今期と前年同期、あるいは今期と来期「見通し」との比較を行い、増加(上昇・好転)企業の割合から減少(低下・悪化)企業等の割合を差し引いたものです。D・Iがプラスなら強気(楽観)、マイナスなら弱気(悲観) 原材料又は商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

例えば、売上高で(増加)企業40%、(不変)企業40%、(減少)企業20%の場合、D・Iは40(増加)－20(減少)＝20となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表わしています。

グラフで示すと下のようになります。



(2) 天気図

D・I値をお天気マークで表示

DI値	特に好調 $30 \leq DI$	好 調 $15 \leq DI < 30$	まあまあ $0 \leq DI < 15$	やや不振 $\Delta 15 \leq DI < 0$	不 振 $\Delta 30 \leq DI < \Delta 15$	きわめて不振 $DI \leq \Delta 30$
表示						
	晴	晴時々曇	うす曇	曇	曇時々雨	雨

I 全産業全体の状況

主要景気動向指数(D・I)

項目	平成31年	令和1年	令和1年	令和1年	令和2年	令和2年
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月
	前年同期	前々々期	前々期	前期	今期	来期見通し
売上高	▲18.9	▲13.9	▲10.4	▲11.4	▲20.2	▲30.1
採算	▲15.0	▲3.1	▲16.2	▲13.6	▲23.0	▲24.5
資金繰り	▲13.9	▲5.5	▲9.3	▲9.0	▲13.3	▲19.9
業況	▲12.5	▲7.6	▲12.4	▲9.5	▲19.0	▲25.0

いずれも前年同期と比較したもの。

<主要景況項目の概況>

◎売上高

今期(令和2年1月～令和2年3月)の売上高のD・Iは、▲20.2ポイントとなって、直前四半期の▲11.4ポイントより悪化した。建設業で改善したが、サービス業は前期とほぼ横ばい、製造業、小売業では悪化した。来期については▲30.1ポイントと今期よりさらに悪化を見込んでいる。

◎採算

採算のD・Iは、▲23.0ポイントとなっており、直前四半期の▲13.6ポイントより悪化している。建設業は前期とほぼ横ばいであったが、製造業、小売業、サービス業では悪化している。来期については、▲24.5ポイントと悪化を見込んでいる。

◎資金繰り

資金繰りのD・Iは、▲13.3ポイントで、直前四半期から悪化した。建設業は改善し、サービス業は前期と同じであったが、製造業と小売業は悪化した。来期について、全体で▲19.9ポイントであり、当期より悪化を見込んでいる。

◎業況

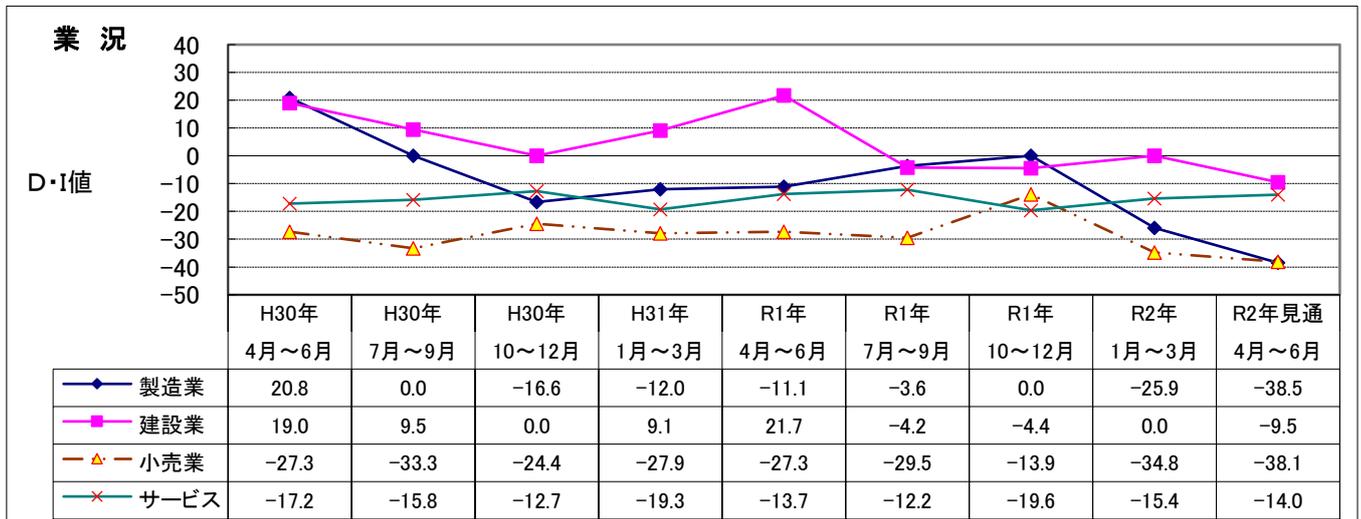
業況のD・Iは、▲19.0ポイントで、前期に比べて悪化している。来期は▲25.0ポイントとさらに悪化を見込んでいる。

内閣府の令和2年3月発表の月例経済報告では、「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、足下で大幅に下押しされており、厳しい状況にある。先行きについては、感染症の影響による厳しい状況が続くと見込まれる。また、感染症が内外経済をさらに下振れさせるリスクに十分注意する必要がある。金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。」としており、景気の基調判断が変更された。日本銀行宮崎事務所の3月6日付の宮崎県金融経済概況では、「宮崎県の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、基調としては緩やかな回復を続けている。」としており、公表が、新型コロナウイルスの影響が深刻化する前の時期であったため、基調判断としては、前回の判断と変更はなかった。新型コロナウイルス感染症の影響が深刻化しており、県内企業にも次期四半期では大きな影響が出てくることが予想される。

製造業	売上、採算、資金繰りの全てで悪化という結果となった。次期の見通しも、売上、採算、資金繰りの全てで当期より悪化を見込んでいる。
建設業	完成工事額と資金繰りは改善し、採算は横ばいという結果になった。次期の見通しは、採算は当期とほぼ横ばいであるが、完成工事額と資金繰りは悪化を見込んでいる。
小売業	売上、採算、資金繰りの全てで悪化という結果となった。次期は売上と採算は改善、資金繰りは悪化を見込んでいる。
サービス業	売上と資金繰りは前期とほぼ横ばい、採算は悪化という結果となった。次期は売上、採算、資金繰りの全てで改善を見込んでいる。

<経営上の問題点について>

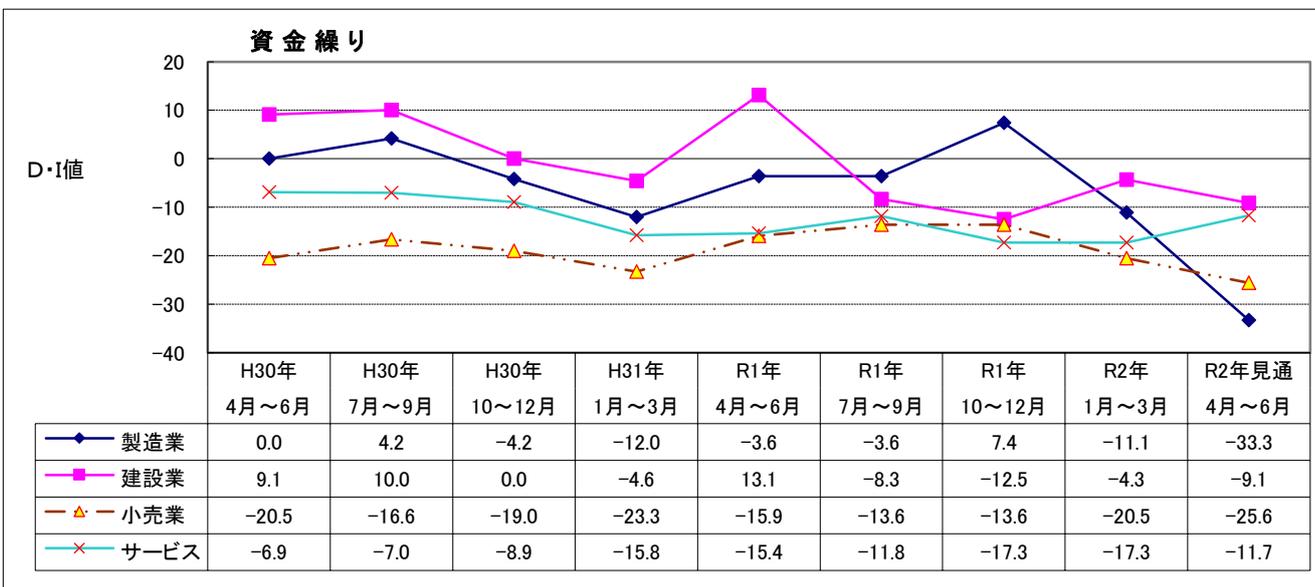
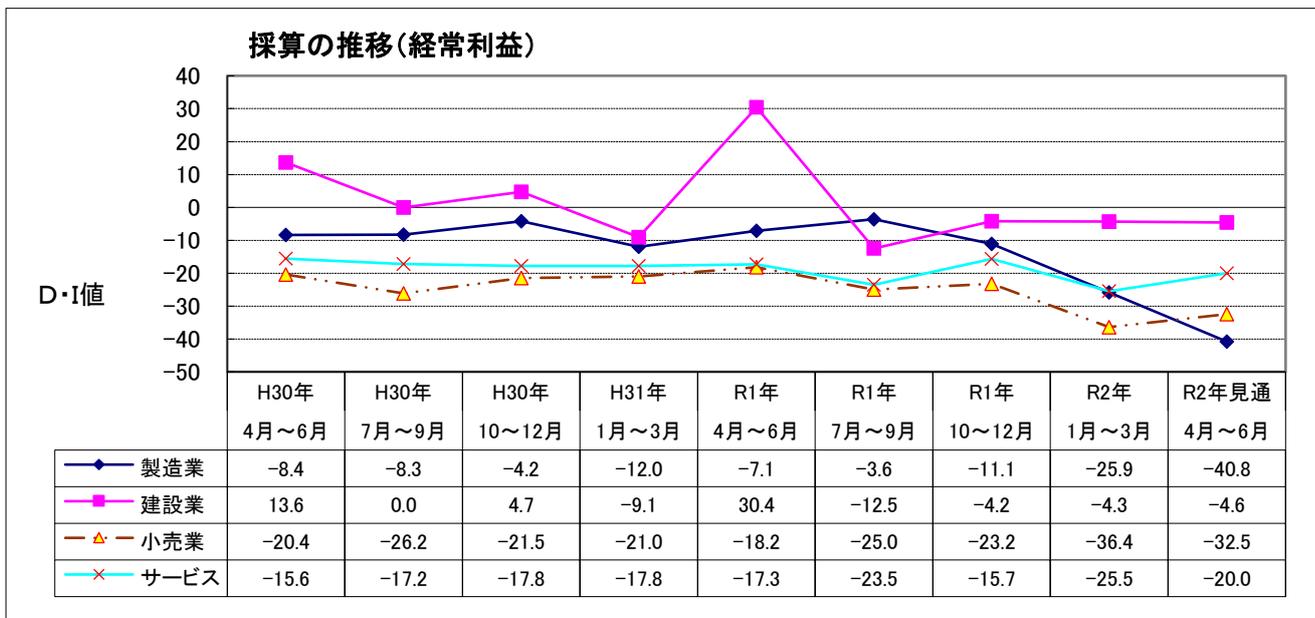
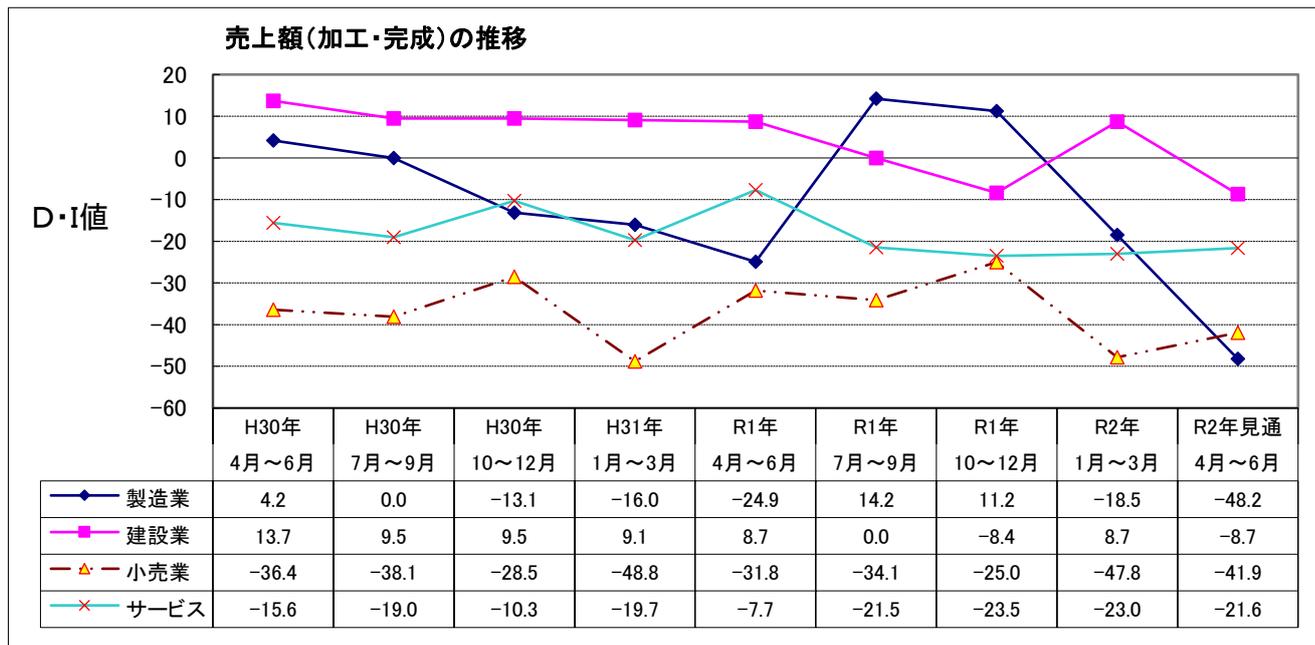
製造業、小売業、サービス業については、「需要の停滞」が前回の調査から引き続き上位に挙げられている。消費税率引き上げの影響が見られるところである。建設業については、「従業員の確保難」と人の問題が経営上の問題点に挙げられていた。新型コロナウイルス感染症対策で自粛の動きが広まっていることから、需要が急減し、資金繰り難に陥る中小・小規模事業者が急増することが懸念される場所である。



(業況天気図)

業種別	製造業	建設業	小売業	サービス業
1月から3月 実績	曇時々雨	うす曇	雨	曇時々雨
D・I値	▲ 25.9	0.0	▲ 34.8	▲ 15.4
4月から6月 見通し	雨	曇	雨	曇
D・I値	▲ 38.5	▲ 9.5	▲ 38.1	▲ 14.0
傾 向	↘	↘	↘	↘

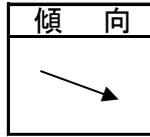
(注) 好転 ↗ 横ばい → 悪化 ↘



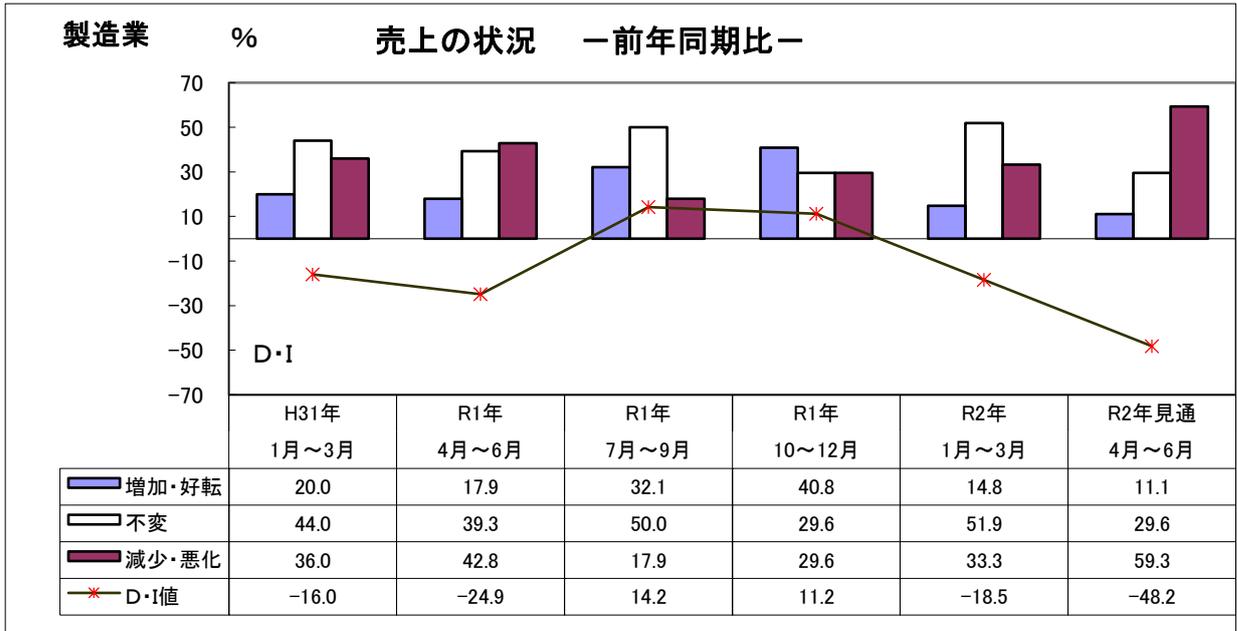
II 製造業の景況

(1) 売上(加工)額の推移

2年1月～3月 (実績)	2年4月～6月 (見通し)
曇時々雨	雨
▲ 18.5	▲ 48.2

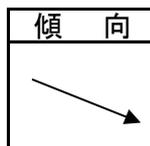


当期の売上高のD・Iは、「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加したため、D・Iは-18.5ポイントと、前期と比べて悪化した。次の四半期は「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加するため、D・Iは当期よりさらに悪化を見込んでいる。

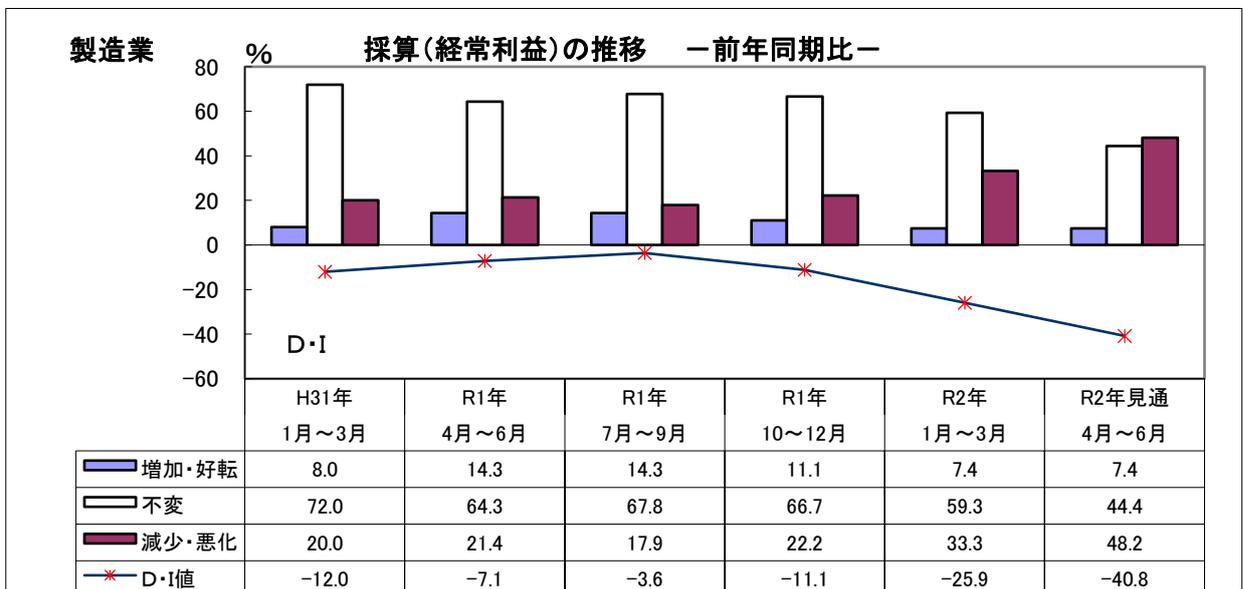


(2) 採算(経常利益)の推移

2年1月～3月 (実績)	2年4月～6月 (見通し)
曇時々雨	雨
▲ 25.9	▲ 40.8

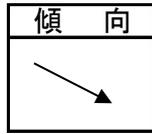


当期の採算のD・Iは、-25.9ポイントで、直前四半期の数値から悪化した。「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業は当期と同じであるが、「減少・悪化」の企業が増加するため、当期からさらに悪化する予想となっている。

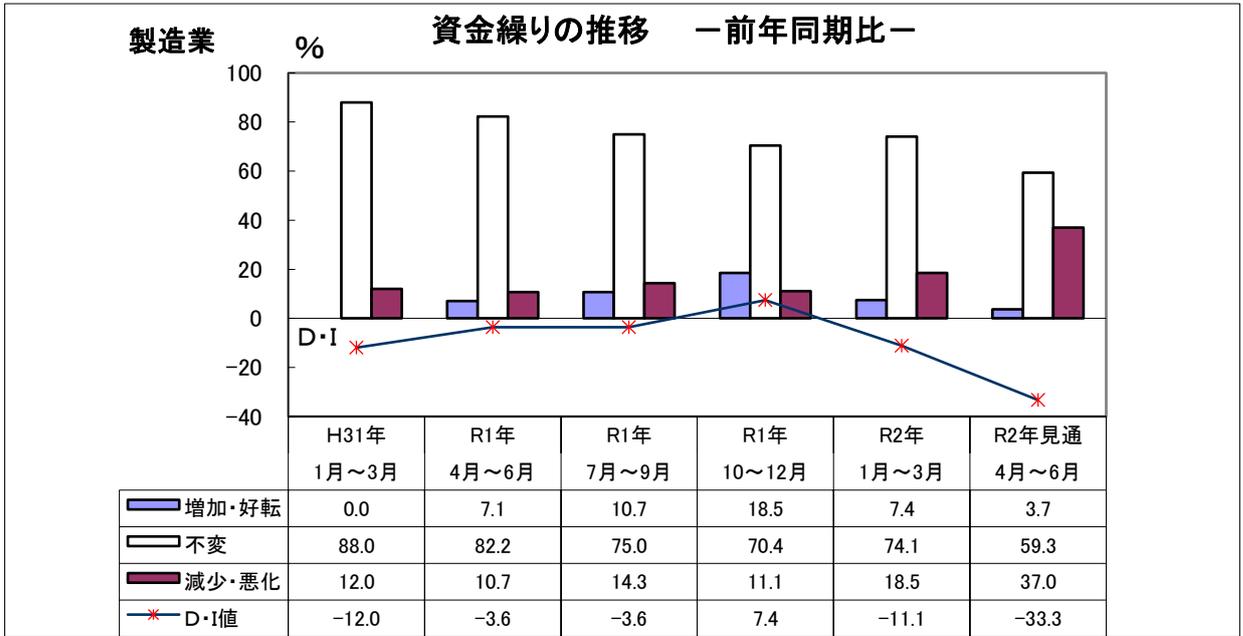


(3) 資金繰りの推移

2年1月～3月 (実績)	2年4月～6月 (見通し)
	
曇	雨
▲ 11.1	▲ 33.3

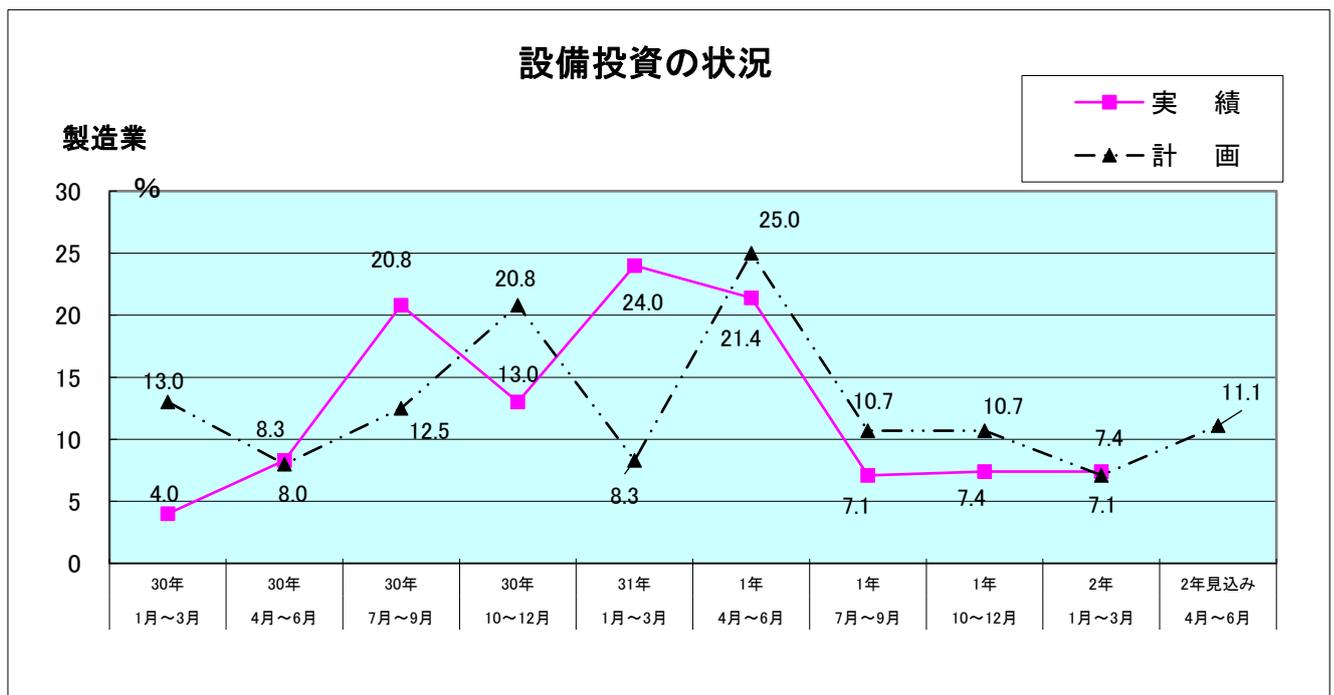


当期の資金繰りのD・Iは、-11.1ポイントとなり、前期より悪化した。「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加したためである。次の四半期については、「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加するため、資金繰りのD・Iは、当期よりもさらに悪化を見込んでいる。



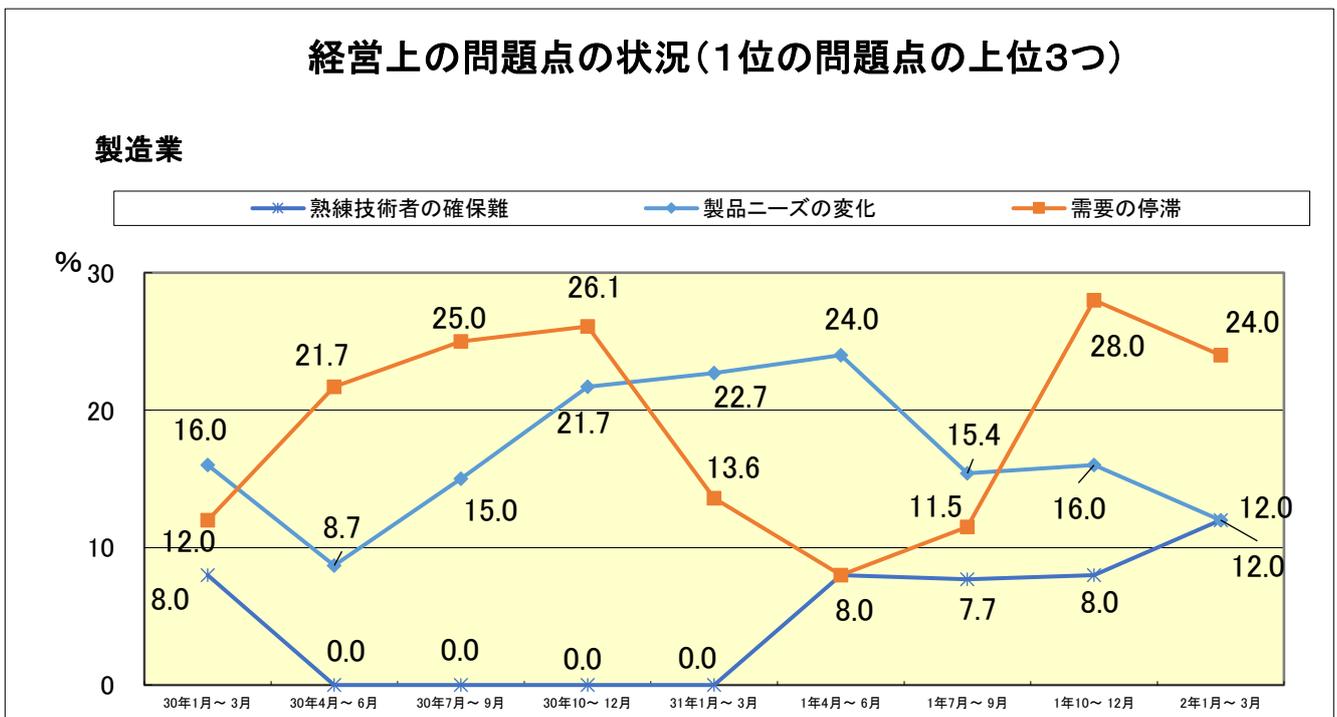
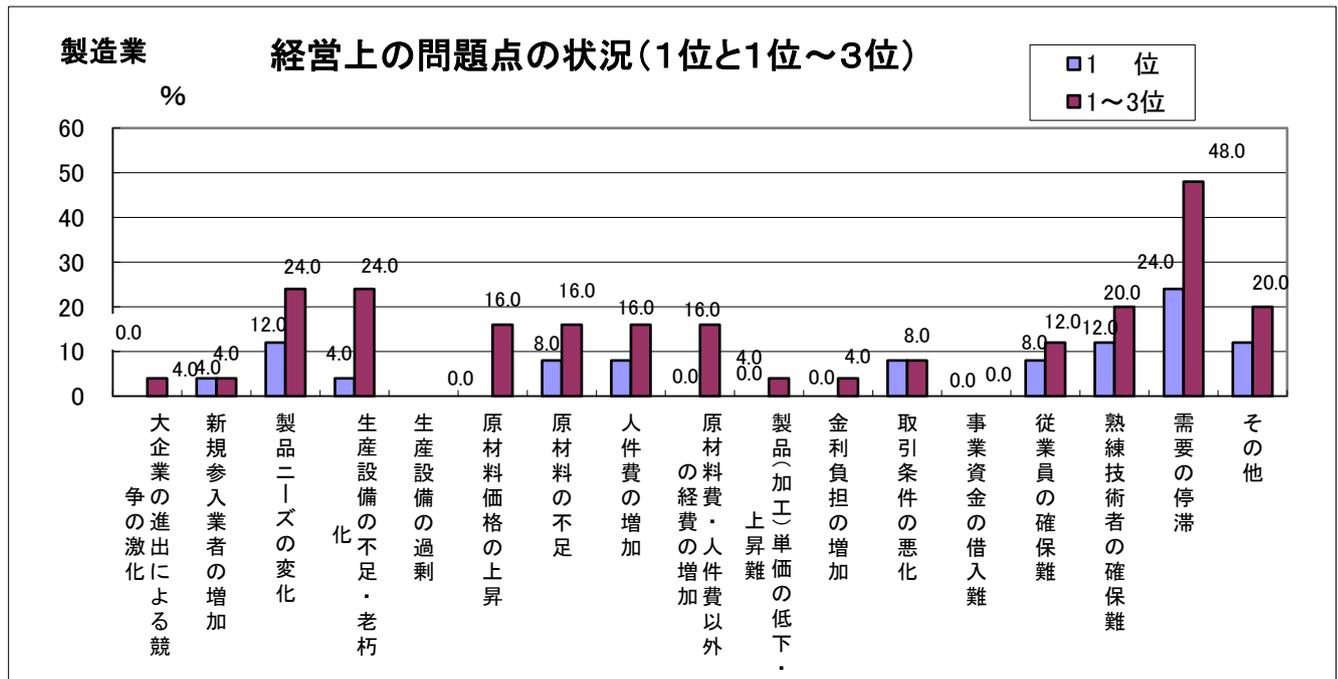
(4) 設備投資の推移

当期の設備投資計画は7.1%の企業が実施の意向を見せていたが、実績は7.4%となり、実績は計画を上回った。
次の四半期は11.1%の企業が計画している。内容は工場建物、生産設備となっている。



(5) 経営上の問題点

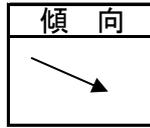
経営上の問題点について回答を求めたところ、(1位グループ)の合計で多かったのは、1位が「需要の停滞」、2位が同率で「熟練技術者の確保難」、「製品ニーズの変化」となっている。(1位～3位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が同率で「製品ニーズの変化」、「生産設備の不足・老朽化」となった。今回の調査でも1位グループ、1位～3位グループともに需要の停滞が1位となった。



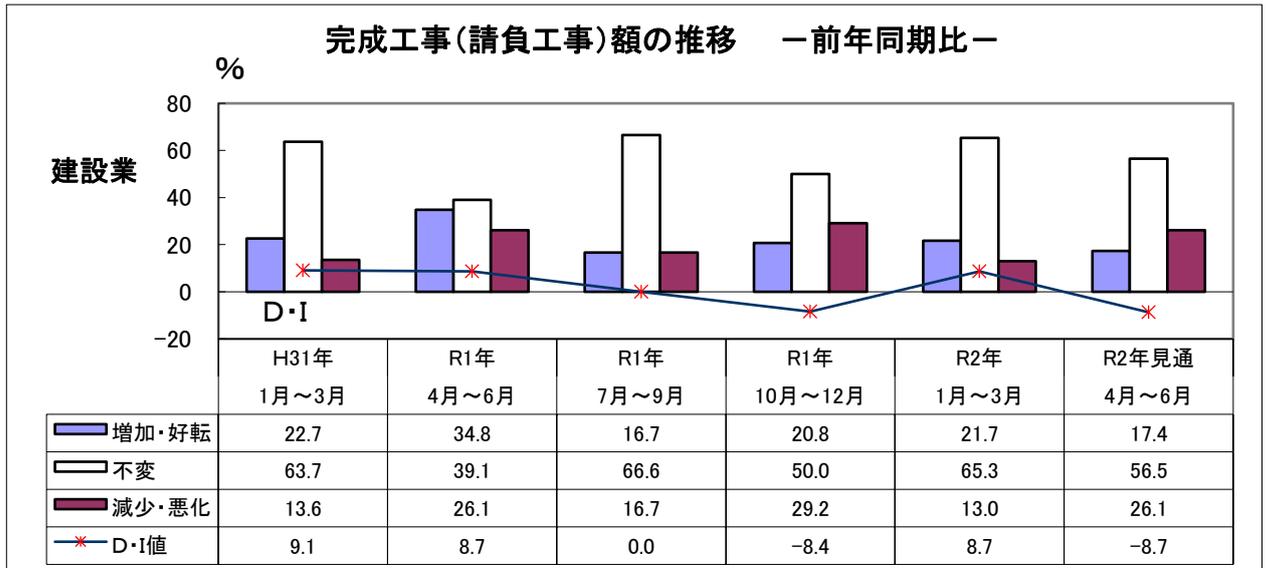
Ⅲ 建設業の景況

(1) 完成工事額の推移

2年1月～3月 (実績)	2年4月～6月 (見通し)
うす曇	曇
8.7	▲ 8.7



当期の完成工事額のD・Iは、8.7ポイントとなり、前期から改善した。「増加・好転」とする企業は前期とほぼ横ばいであったが、「減少・悪化」とする企業が減少したためである。次の四半期については、「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加するため、完成工事額のD・Iは、当期より悪化し、-8.7ポイントとなっている。

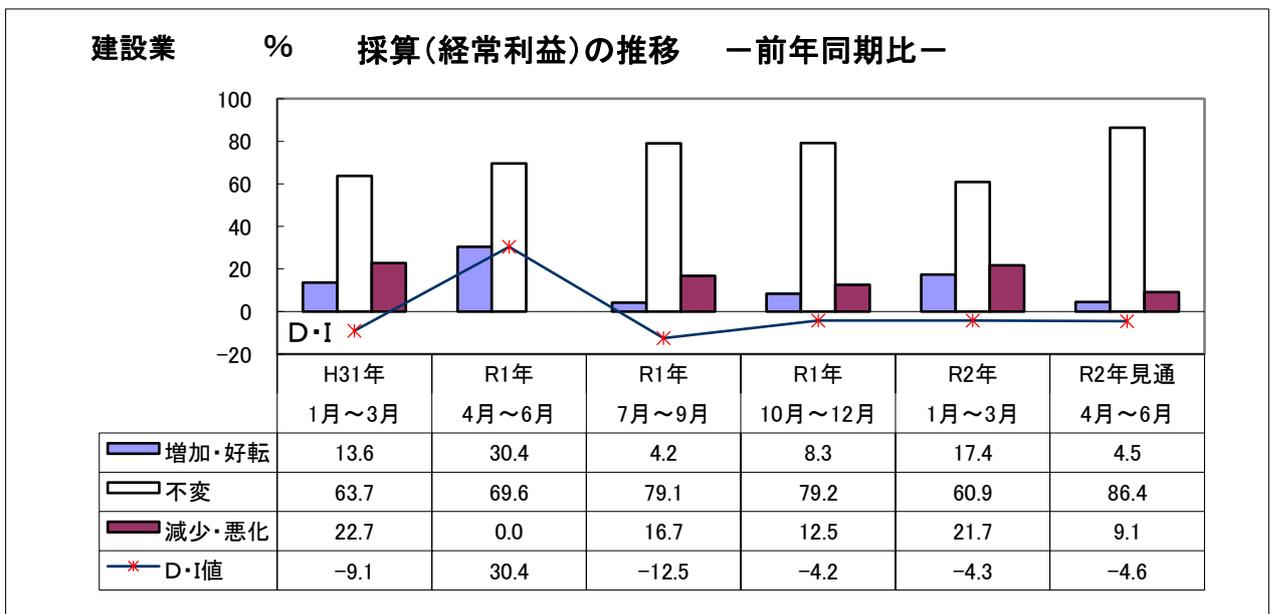


(2) 採算(経常利益)の推移

2年1月～3月 (実績)	2年4月～6月 (見通し)
曇	曇
▲ 4.3	▲ 4.6

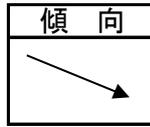


当期の採算のD・Iは、-4.3ポイントであった。前期とほぼ横ばいである。「増加・好転」とする企業が増加したが、「減少・悪化」とする企業も増加したためである。次の四半期は、「増加・好転」とする企業が減少するが、「減少・悪化」とする企業も同じ割合で減少するため、D・Iは、当期とほぼ横ばいの-4.6ポイントとなっている。

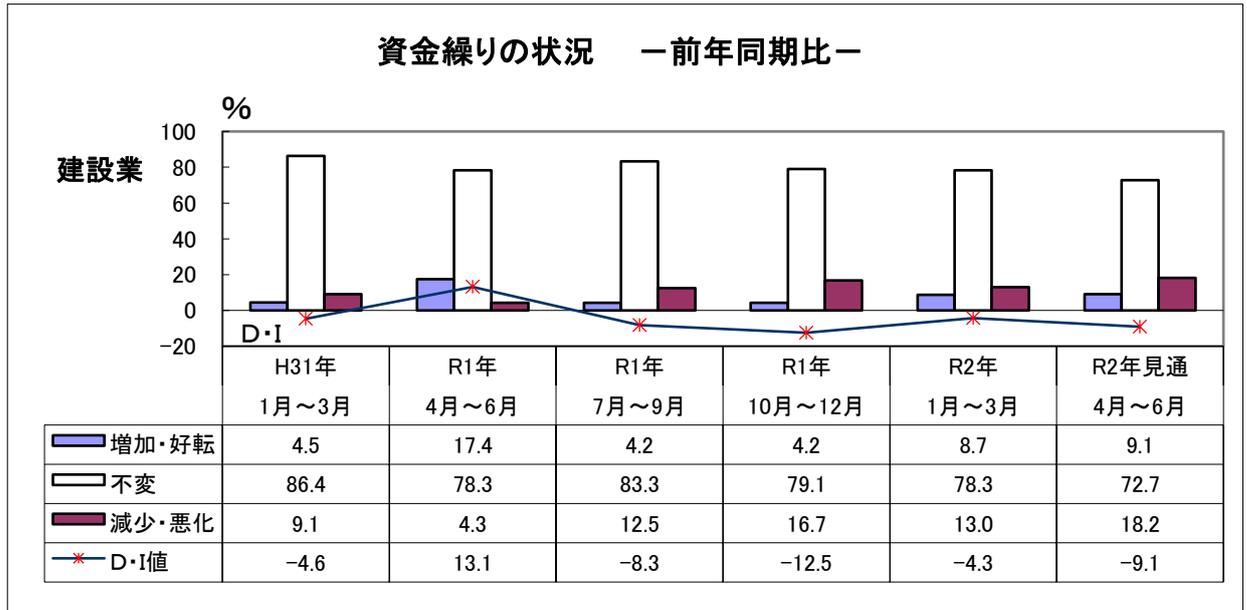


(3) 資金繰りの推移

2年1月～3月 (実績)	2年4月～6月 (見通し)
▲ 4.3	▲ 9.1

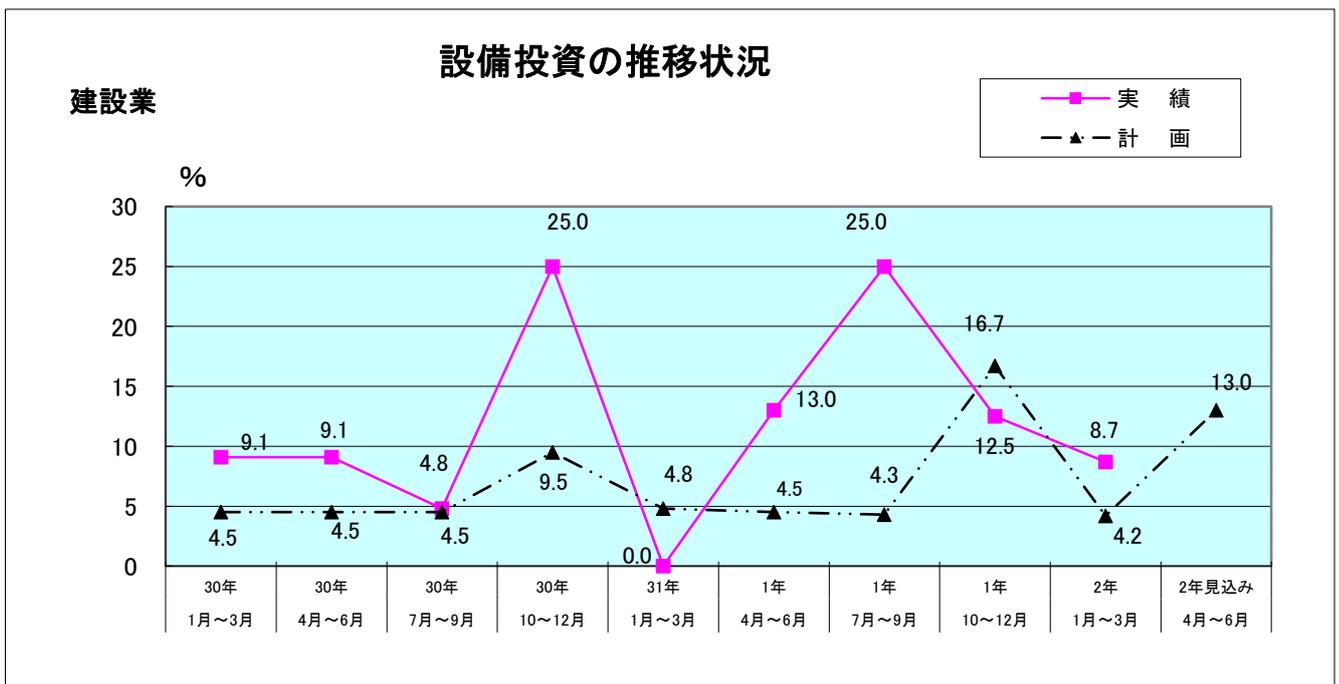


資金繰りのD・Iは-4.3ポイントと、前期より改善する結果となった。「増加・好転」とする企業が増加し、「減少・悪化」とする企業が減少したためである。次の四半期については、「増加・好転」とする企業がほぼ横ばいで、「減少・悪化」とする企業が増加するため、D・Iは、-9.1ポイントと悪化を見込んでいる。



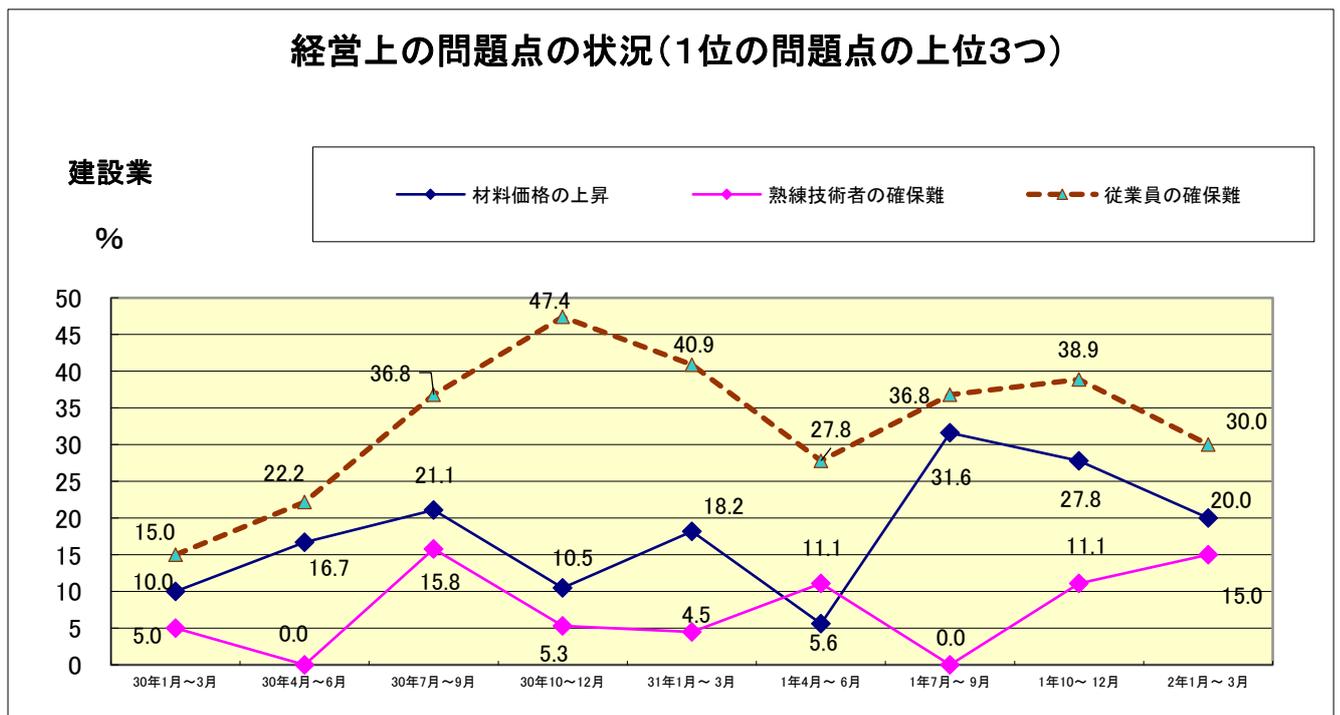
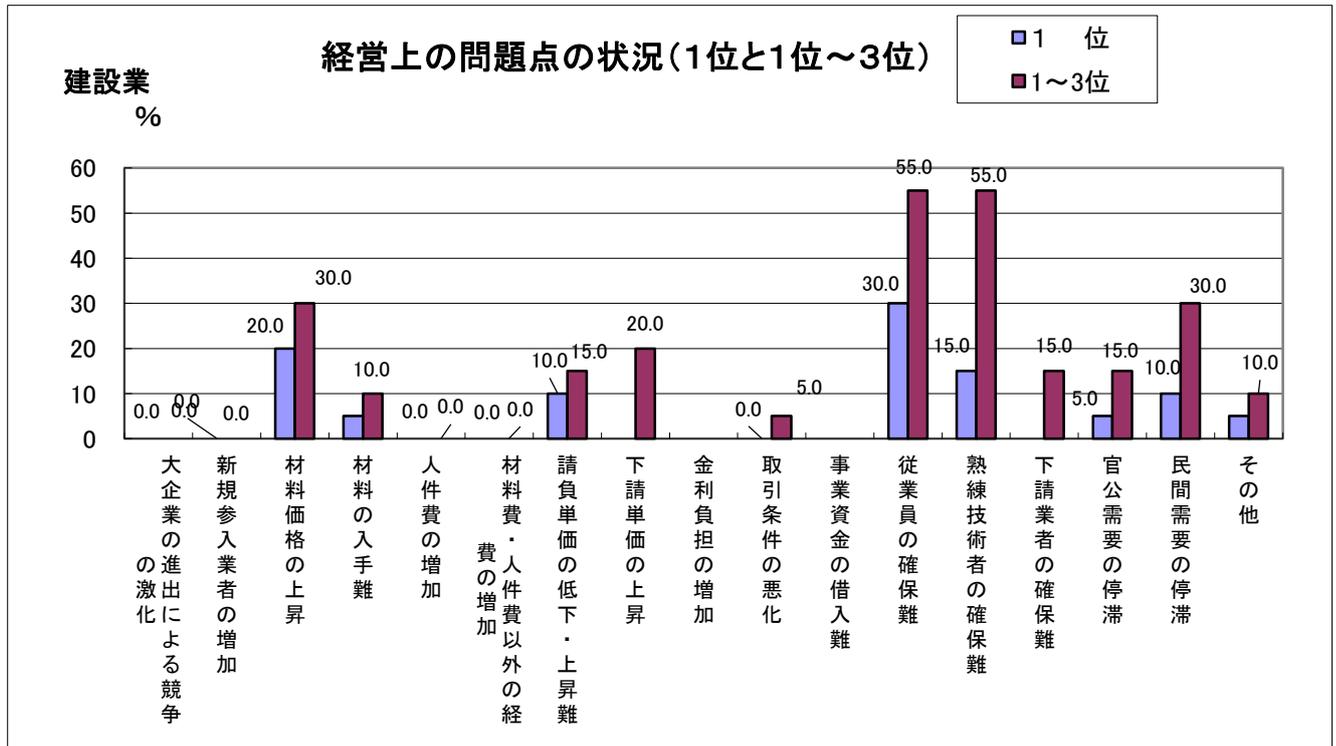
(4) 設備投資の推移

当期の設備投資計画は4.2%であったが、実際に投資を行った企業は8.7%であった。次の四半期に設備投資を計画している企業は13.0%という結果となっている。投資対象は建設機械、OA機器となっている。



(5) 経営上の問題点

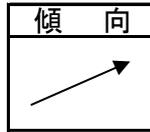
経営上の問題点について、(1位グループ)で回答が多かったのは、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「熟練技術者の確保難」となった。前回の調査結果と同じであった。(1位～3位グループ)では、1位が同率で、「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」、2位が同率で「材料価格の上昇」、「民間需要の停滞」であった。前回の調査から継続して、「従業員の確保難」が上位となっており人手の確保が経営上の課題となっている。



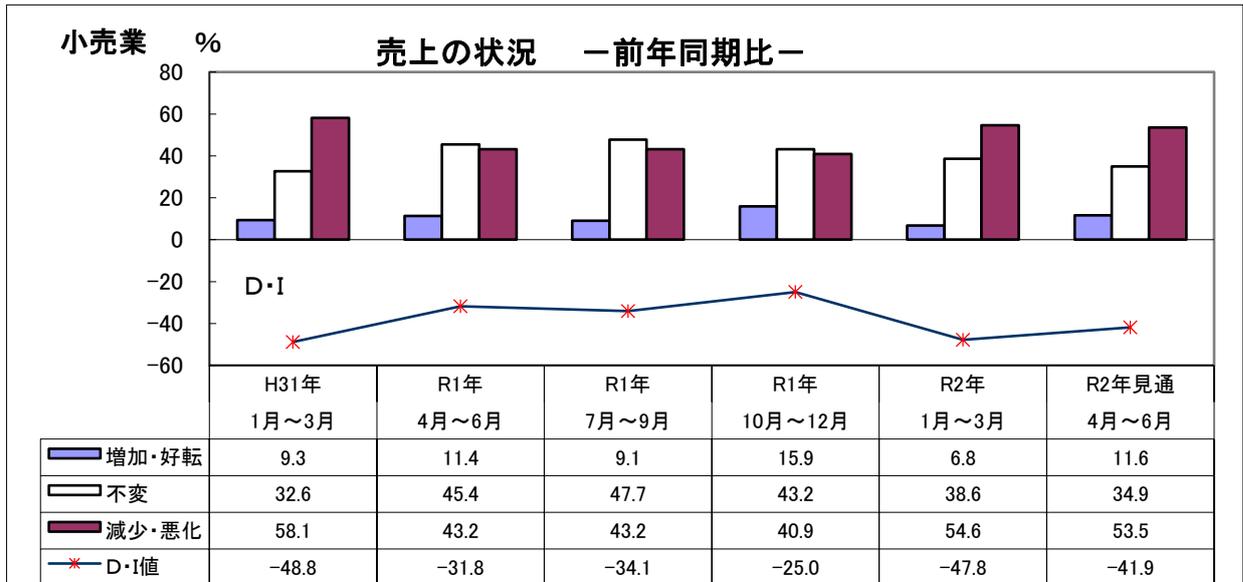
IV 小売業の景況

(1) 売上額の推移

2年1月～3月 (実績)	2年4月～6月 (見通し)
	
雨	雨
▲ 47.8	▲ 41.9

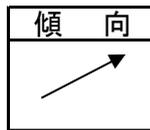


当期の売上のD・Iは-47.8ポイントで、直前期の-25.0ポイントより悪化した。「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。客数、客単価ともに悪化している。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業は当期とほぼ横ばいのため、D・Iは水面下であるが改善を見込んでいる。

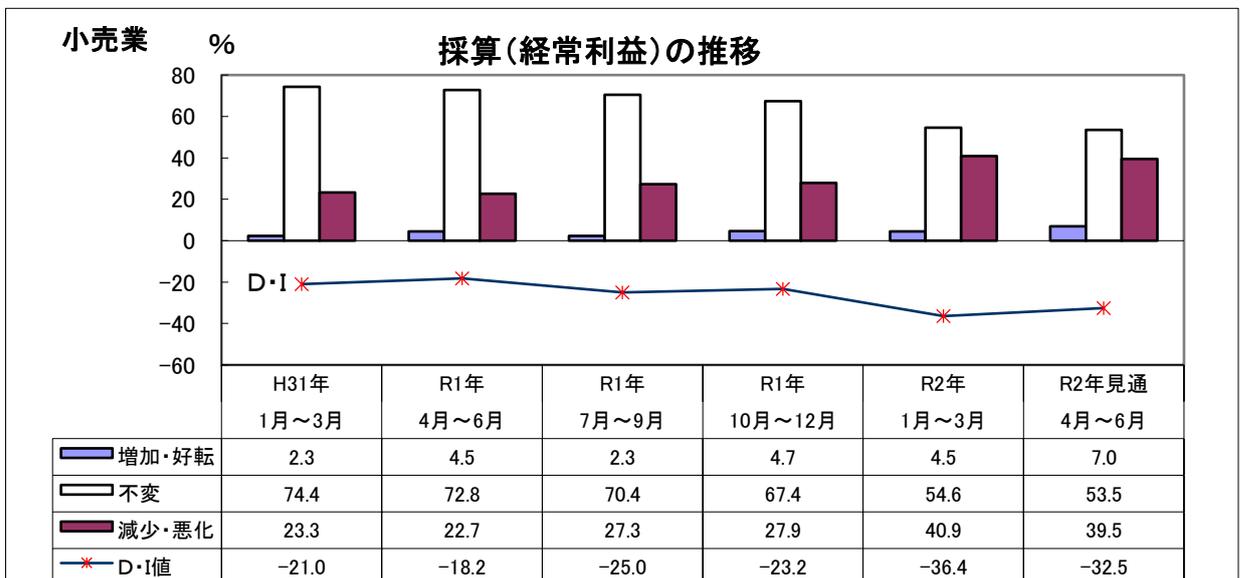


(2) 採算(経常利益)の推移

2年1月～3月 (実績)	2年4月～6月 (見通し)
	
雨	雨
▲ 36.4	▲ 32.5

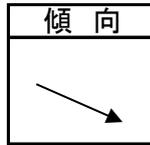


当期の採算のD・Iは-36.4ポイントで、前期より悪化した。「増加・好転」とする企業はほぼ横ばいであったが、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」とする企業が当期とほぼ横ばいのため、D・Iは水面下であるが当期より改善を見込んでいる。

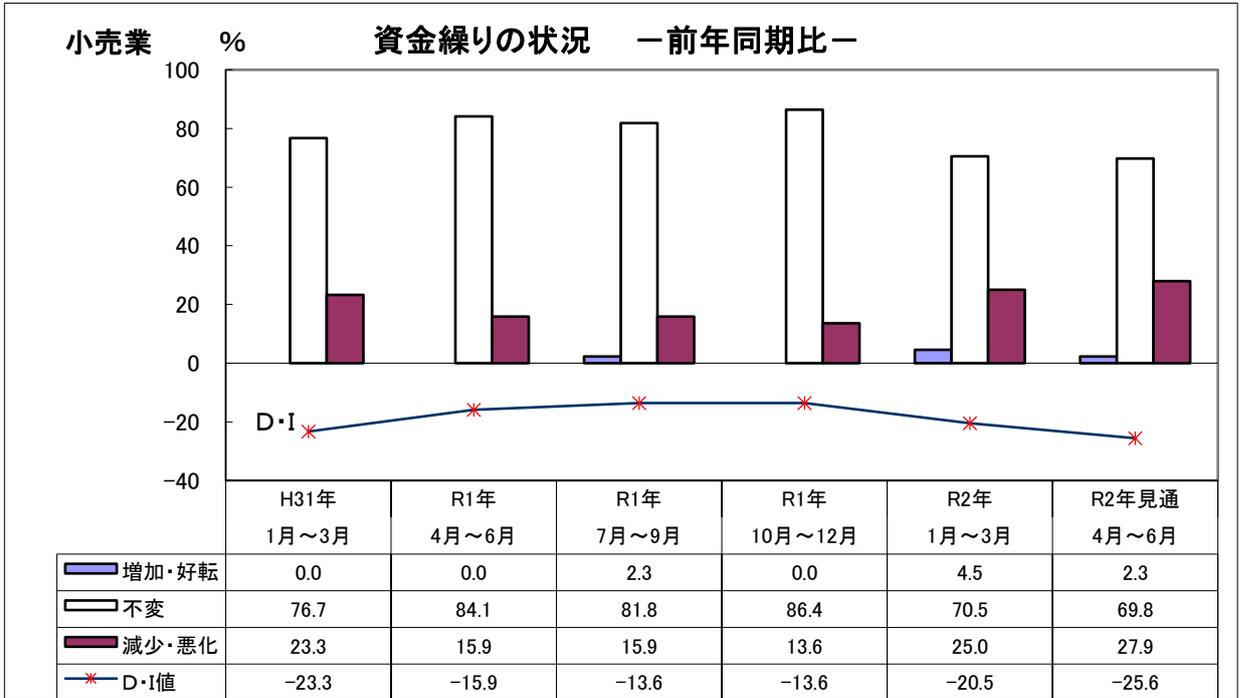


(3) 資金繰りの推移

2年1月～3月 (実績)	2年4月～6月 (見通し)
	
曇時々雨	曇時々雨
▲ 20.5	▲ 25.6



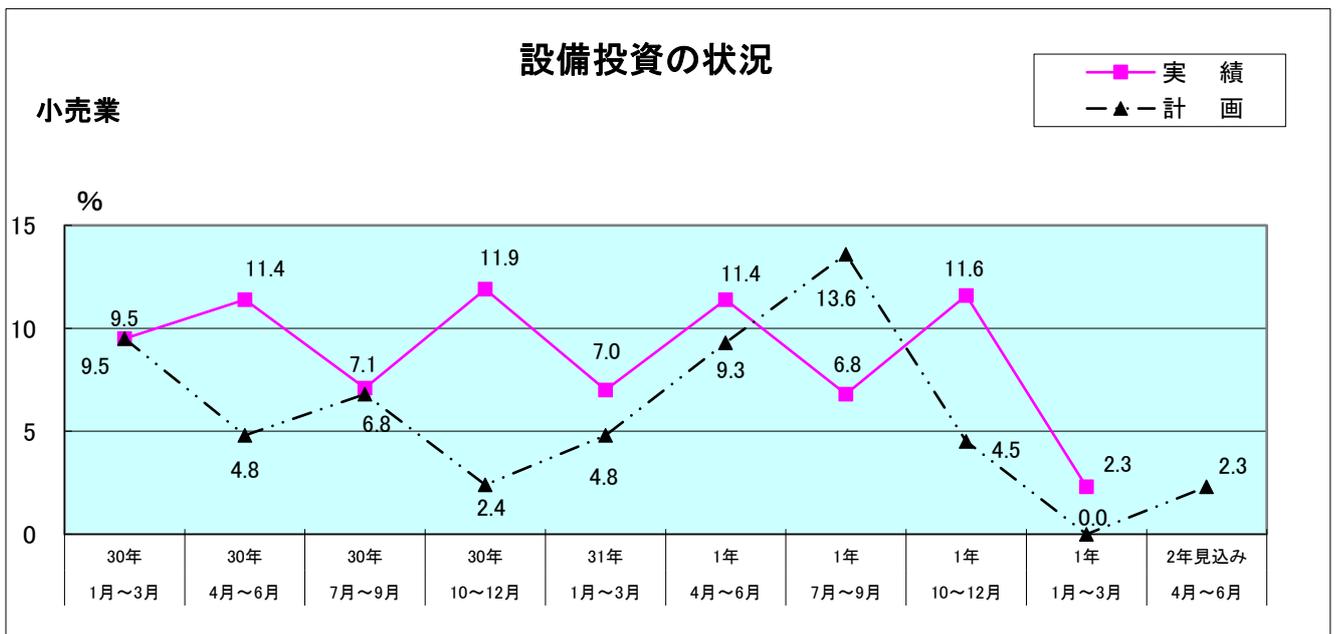
当期の資金繰りのD・Iは-20.5ポイントで、直前期から悪化した。「増加・好転」とする企業は増加したが、「減少・悪化」とする企業が大きく増加したためである。次期四半期は「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加するため、D・Iは当期より悪化を見込んでいる。



(4) 設備投資の推移

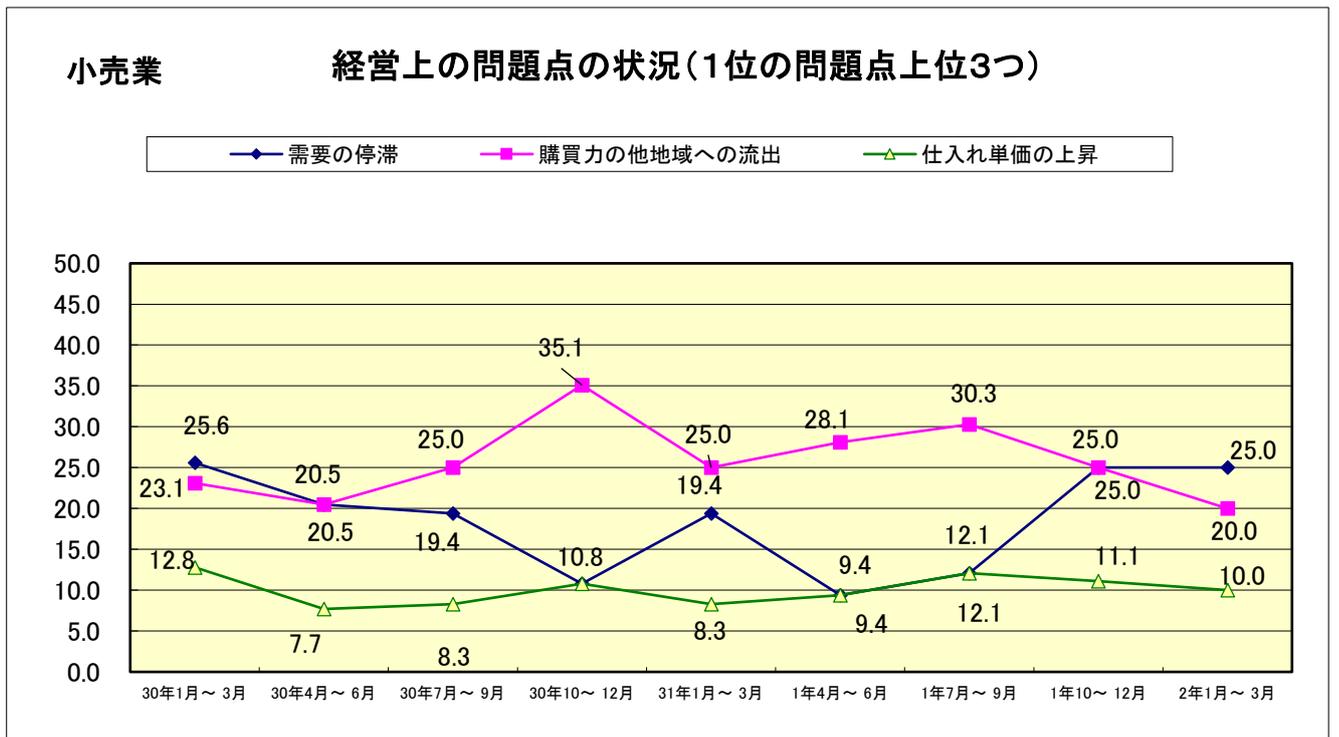
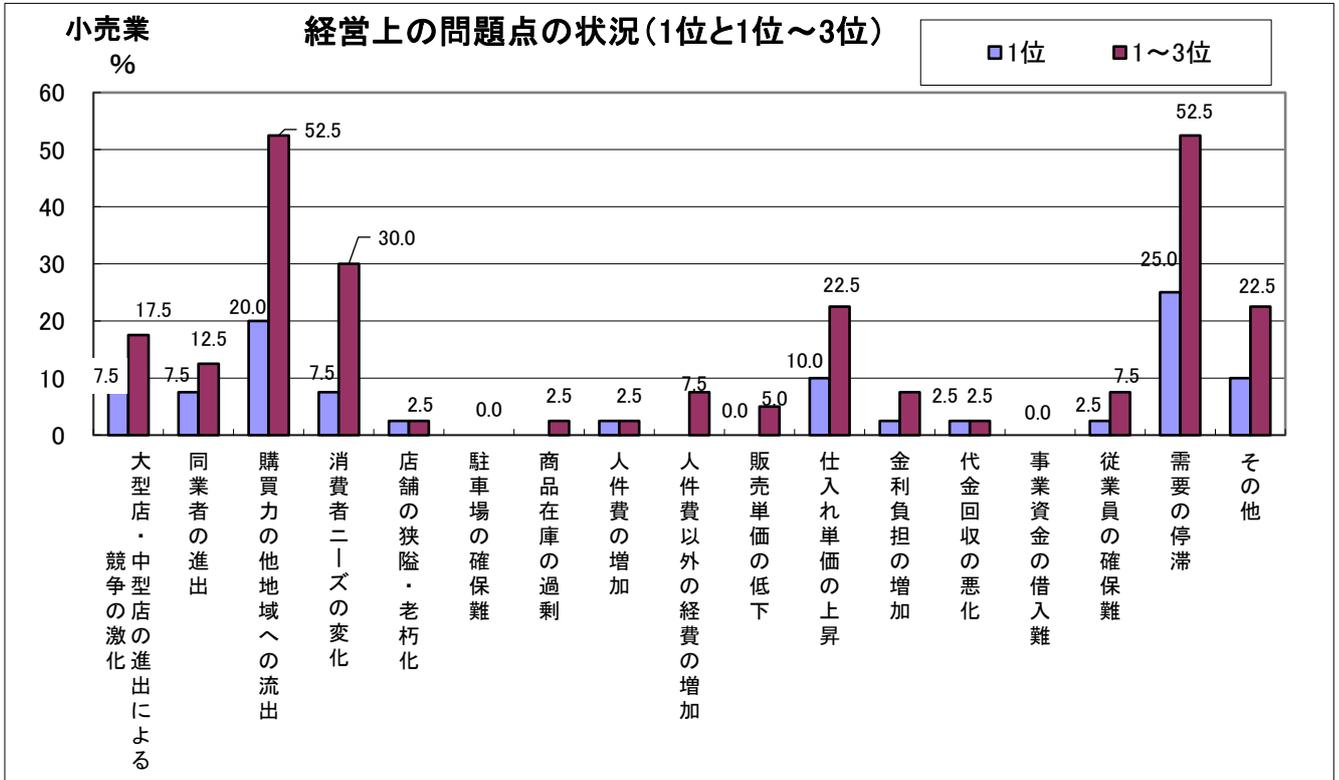
設備投資は0.0%の企業が計画し、実際に実施した企業は2.3%となった。投資対象は店舗となっている。

次の四半期の見通しは、設備投資を計画している企業は2.3%となっている。



(5) 経営上の問題点

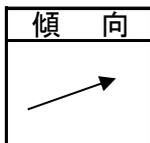
経営上の問題点について、回答が多かったのは、(1位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が「購買力の他地域への流出」、3位が「仕入れ単価の上昇」であった。(1位から3位グループ)では、1位が同率で「購買力の他地域への流出」、「需要の停滞」、2位が「消費者ニーズの変化」であった。経営上の問題点は過去の調査結果からは変わっていない。



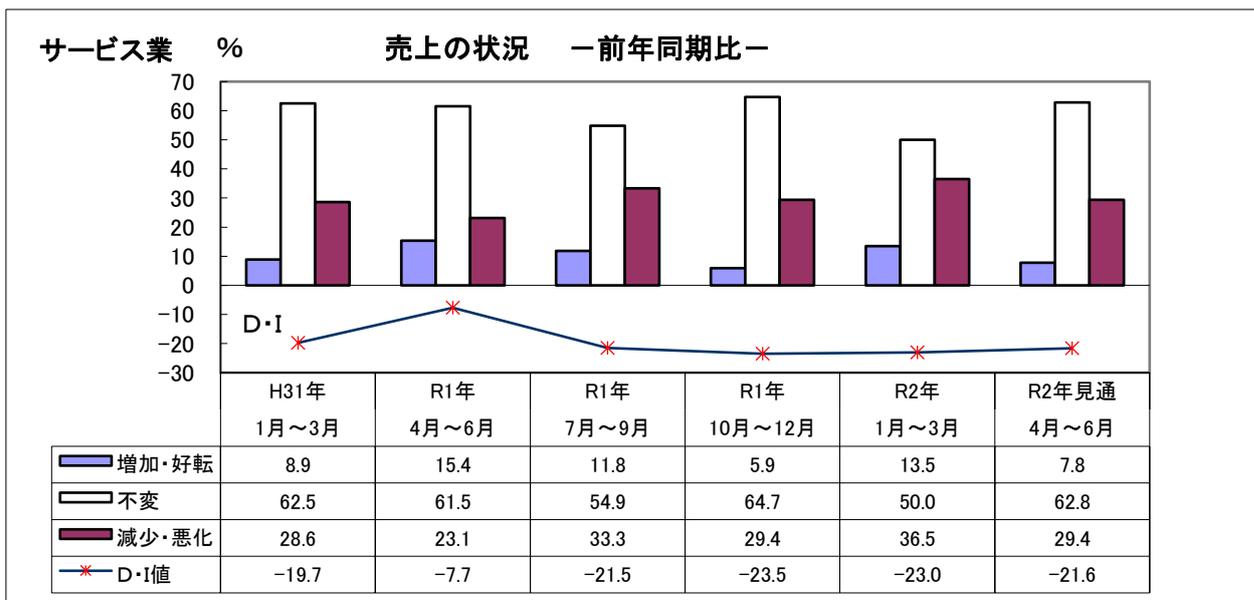
V サービス業の景況

(1) 売上額の推移

2年1月～3月 (実績)	2年4月～6月 (見通し)
	
曇時々雨 ▲ 23.0	曇時々雨 ▲ 21.6

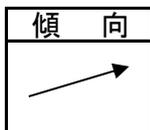


当期の売上のD・Iは、-23.0ポイントと前期とほぼ横ばいである。「増加・好転」の企業は増加したが、「減少・悪化」の企業も増加したためである。利用客数で悪化傾向を示している。
次の四半期は「増加・好転」の企業が減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、D・Iは当期より改善傾向を示している。

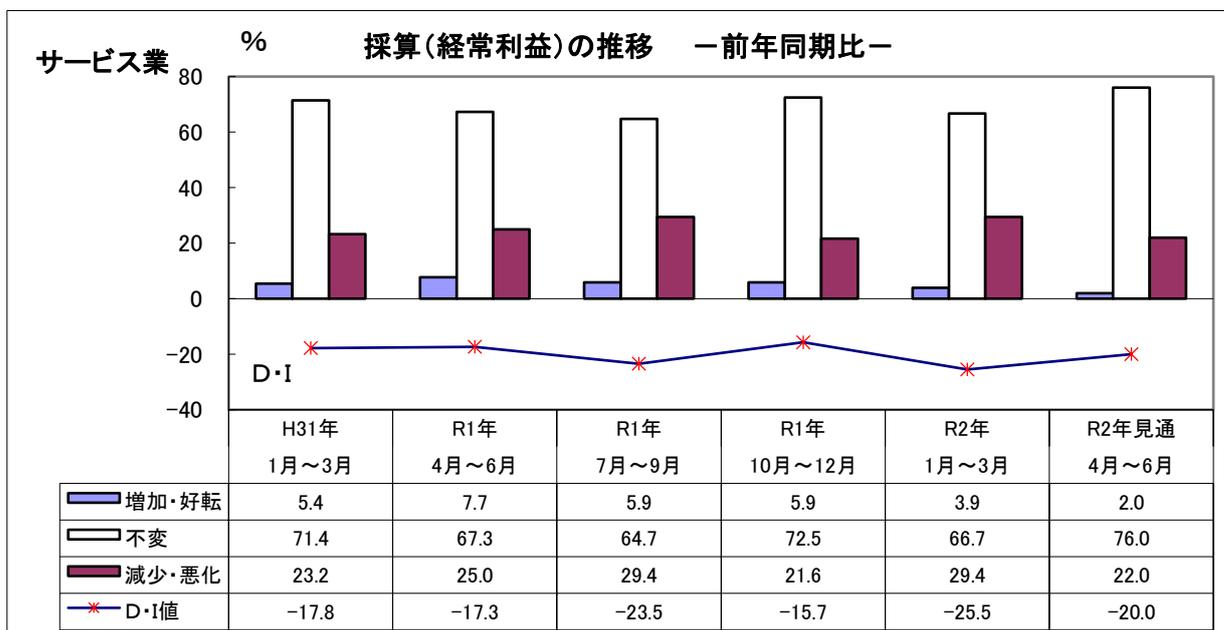


(2) 採算(経常利益)の推移

2年1月～3月 (実績)	2年4月～6月 (見通し)
	
曇時々雨 ▲ 25.5	曇時々雨 ▲ 20.0

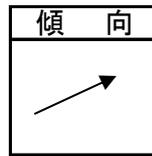


当期の採算のD・Iは、-25.5ポイントで、前期より悪化した。「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業は減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、D・Iは当期より改善する見込みとなっている。

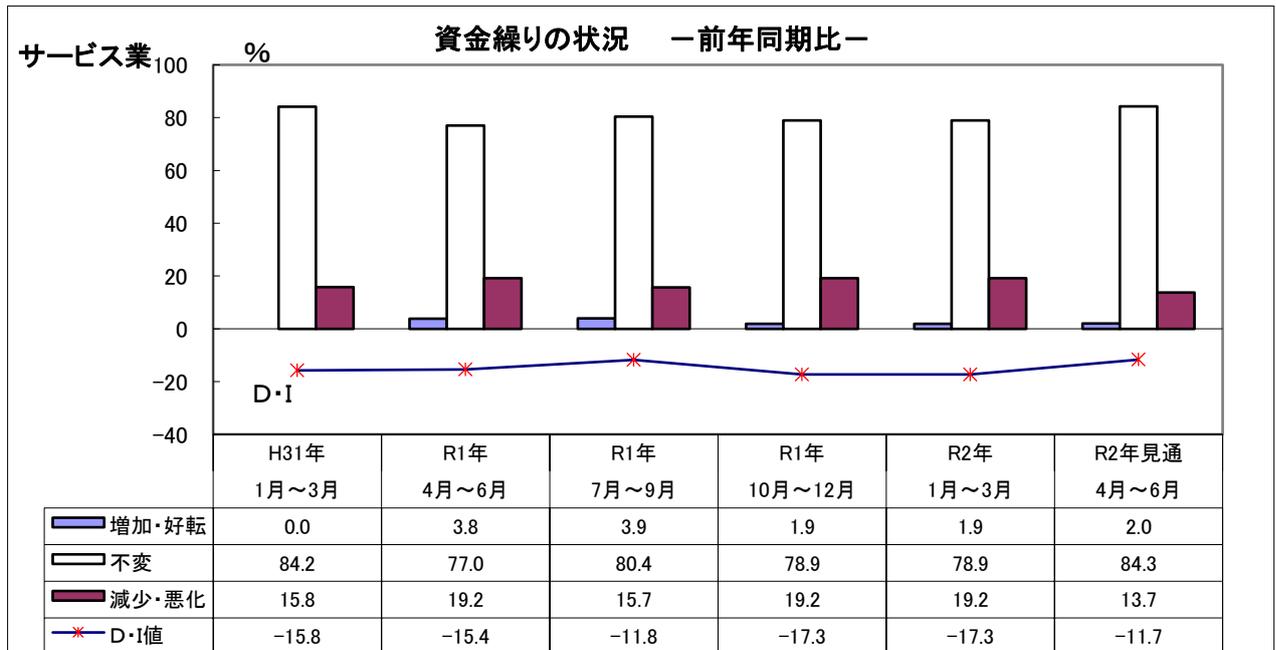


(3) 資金繰りの推移

2年1月～3月 (実績)	2年4月～6月 (見通し)
曇時々雨	曇
▲ 17.3	▲ 11.7

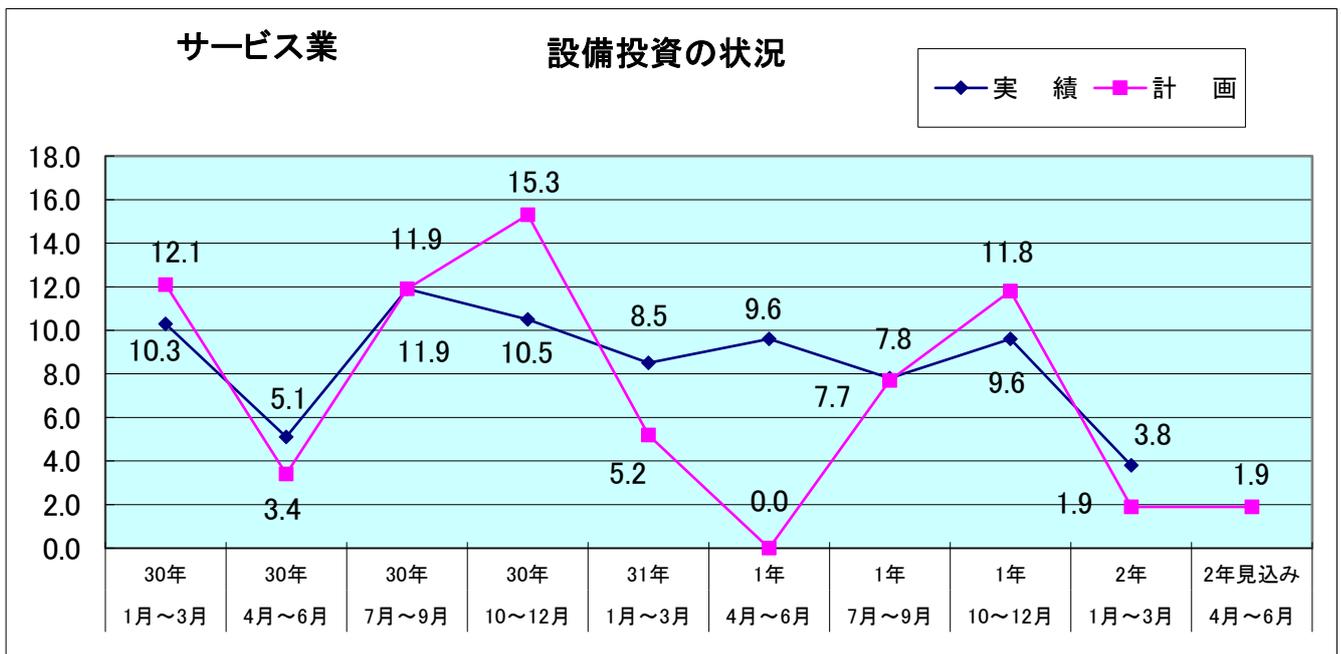


当期の資金繰りのD・Iは、-17.3ポイントと前期と同じであった。「増加・好転」とする企業、「減少・悪化」とする企業ともに前期と同じであった。次の四半期は「増加・好転」の企業が当期とほぼ横ばいで、「減少・悪化」の企業が減少するため、資金繰りのD・Iは、当期より改善する。



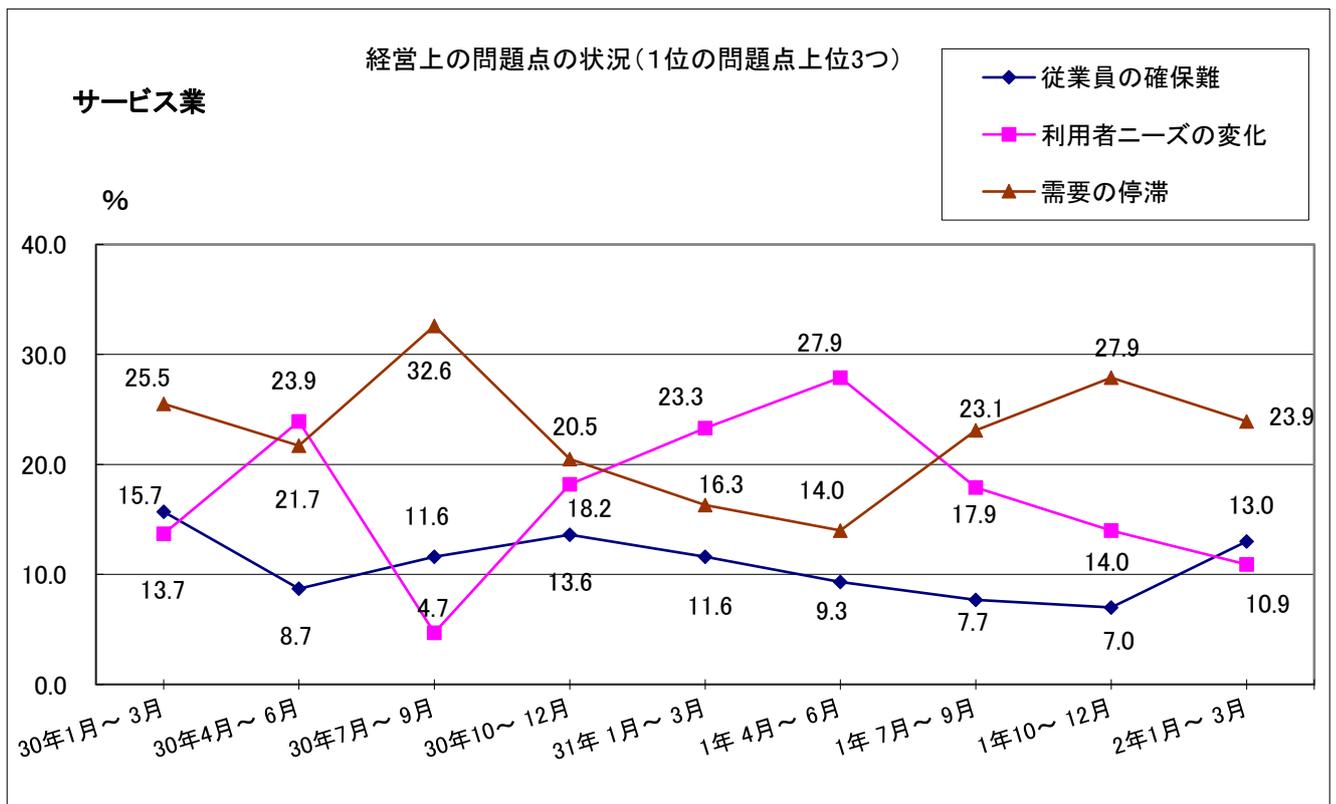
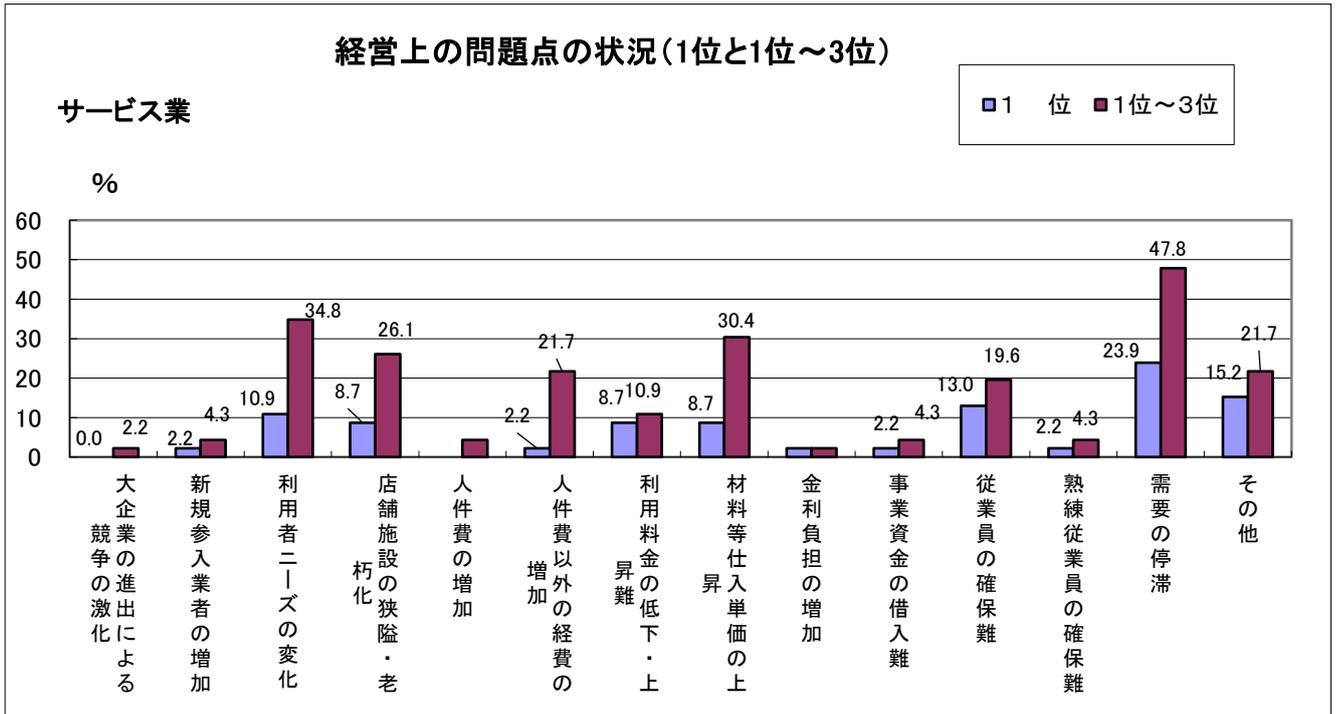
(4) 設備投資の推移

当期は、設備投資を計画していた企業は1.9%であったが、計画を上回る3.8%の企業が実施した。内容はサービス、OA機器となっている。次の四半期に設備投資を計画している企業は、1.9%との結果となっている。



(5) 経営上の問題点

経営上の問題点(1位グループ)で、回答が多かったものは1位が「需要の停滞」で、2位が「従業員の確保難」、3位が「利用者ニーズの変化」、となっている。(1位から3位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化」、3位が「材料等仕入単価の上昇」となっており、(1位グループ)と同様、「需要の停滞」が1位となっている。



産業別主要景況項目状況

宮崎県商工会連合会

業種			実績				見通し	
			平成31年 1月～3月	令和1年 4月～6月	令和1年 7月～9月	令和1年 10月～12月	令和2年 1月～3月	令和2年 4月～9月
製造業	売上(加工)額	増加・好転	20.0	17.9	32.1	40.8	14.8	11.1
		不変	44.0	39.3	50.0	29.6	51.9	29.6
		減少・悪化	36.0	42.8	17.9	29.6	33.3	59.3
		D・I値	▲ 16.0	▲ 24.9	14.2	11.2	▲ 18.5	▲ 48.2
	採算(経常利益)	増加・好転	8.0	14.3	14.3	11.1	7.4	7.4
		不変	72.0	64.3	67.8	66.7	59.3	44.4
		減少・悪化	20.0	21.4	17.9	22.2	33.3	48.2
		D・I値	▲ 12.0	▲ 7.1	▲ 3.6	▲ 11.1	▲ 25.9	▲ 40.8
	資金繰り	増加・好転	0.0	7.1	10.7	18.5	7.4	3.7
		不変	88.0	82.2	75.0	70.4	74.1	59.3
		減少・悪化	12.0	10.7	14.3	11.1	18.5	37.0
		D・I値	▲ 12.0	▲ 3.6	▲ 3.6	7.4	▲ 11.1	▲ 33.3
設備投資	計画	8.3	25.0	10.7	10.7	7.1	11.1	
	実行	24.0	21.4	7.1	7.4	7.4		
建設業	完成工事(請負工事)額	増加・好転	22.7	34.8	16.7	20.8	21.7	17.4
		不変	63.7	39.1	66.6	50.0	65.3	56.5
		減少・悪化	13.6	26.1	16.7	29.2	13.0	26.1
		D・I値	9.1	8.7	0.0	▲ 8.4	8.7	▲ 8.7
	採算(経常利益)	増加・好転	13.6	30.4	4.2	8.3	17.4	4.5
		不変	63.7	69.6	79.1	79.2	60.9	86.4
		減少・悪化	22.7	0.0	16.7	12.5	21.7	9.1
		D・I値	▲ 9.1	30.4	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 4.3	▲ 4.6
	資金繰り	増加・好転	4.5	17.4	4.2	4.2	8.7	9.1
		不変	86.4	78.3	83.3	79.1	78.3	72.7
		減少・悪化	9.1	4.3	12.5	16.7	13.0	18.2
		D・I値	▲ 4.6	13.1	▲ 8.3	▲ 12.5	▲ 4.3	▲ 9.1
設備投資	計画	4.8	4.5	4.3	16.7	4.2	13.0	
	実行	0.0	13.0	25.0	12.5	8.7		
小売業	売上額	増加・好転	9.3	11.4	9.1	15.9	6.8	11.6
		不変	32.6	45.4	47.7	43.2	38.6	34.9
		減少・悪化	58.1	43.2	43.2	40.9	54.6	53.5
		D・I値	▲ 48.8	▲ 31.8	▲ 34.1	▲ 25.0	▲ 47.8	▲ 41.9
	採算(経常利益)	増加・好転	2.3	4.5	2.3	4.7	4.5	7.0
		不変	74.4	72.8	70.4	67.4	54.6	53.5
		減少・悪化	23.3	22.7	27.3	27.9	40.9	39.5
		D・I値	▲ 21.0	▲ 18.2	▲ 25.0	▲ 23.2	▲ 36.4	▲ 32.5
	資金繰り	増加・好転	0.0	0.0	2.3	0.0	4.5	2.3
		不変	76.7	84.1	81.8	86.4	70.5	69.8
		減少・悪化	23.3	15.9	15.9	13.6	25.0	27.9
		D・I値	▲ 23.3	▲ 15.9	▲ 13.6	▲ 13.6	▲ 20.5	▲ 25.6
設備投資	計画	4.8	9.3	13.6	4.5	0.0	2.3	
	実行	7.0	11.4	6.8	11.6	2.3		
サービス業	売上額	増加・好転	8.9	15.4	11.8	5.9	13.5	7.8
		不変	62.5	61.5	54.9	64.7	50.0	62.8
		減少・悪化	28.6	23.1	33.3	29.4	36.5	29.4
		D・I値	▲ 19.7	▲ 7.7	▲ 21.5	▲ 23.5	▲ 23.0	▲ 21.6
	採算(経常利益)	増加・好転	5.4	7.7	5.9	5.9	3.9	2.0
		不変	71.4	67.3	64.7	72.5	66.7	76.0
		減少・悪化	23.2	25.0	29.4	21.6	29.4	22.0
		D・I値	▲ 17.8	▲ 17.3	▲ 23.5	▲ 15.7	▲ 25.5	▲ 20.0
	資金繰り	増加・好転	0.0	3.8	3.9	1.9	1.9	2.0
		不変	84.2	77.0	80.4	78.9	78.9	84.3
		減少・悪化	15.8	19.2	15.7	19.2	19.2	13.7
		D・I値	▲ 15.8	▲ 15.4	▲ 11.8	▲ 17.3	▲ 17.3	▲ 11.7
設備投資	計画	5.2	0.0	7.7	11.8	1.9	1.9	
	実行	8.5	9.6	7.8	9.6	3.8		
産業全体	売上高		▲ 18.9	▲ 13.9	▲ 10.4	▲ 11.4	▲ 20.2	▲ 30.1
	採算		▲ 15.0	▲ 3.1	▲ 16.2	▲ 13.6	▲ 23.0	▲ 24.5
	資金繰り		▲ 13.9	▲ 5.5	▲ 9.3	▲ 9.0	▲ 13.3	▲ 19.9
	業況		▲ 12.5	▲ 7.6	▲ 12.4	▲ 9.5	▲ 19.0	▲ 25.0

中小企業景況調査報告書

令和2年3月発行

宮崎県商工会連合会

〒880-0013

宮崎市松橋2丁目4番31号

宮崎県中小企業会館2階

TEL 0985-24-2055(代表)

FAX 0985-25-0036